

理工学域・自然科学研究科 第 11 回 F D シンポジウム 実施概要

メインテーマ：「国際化する学生指導」

趣 旨： 留学生の増加に伴い、学生指導（特に大学院生）の現場で、文化や言語の違いから問題となる事例が増えています。

例えば、英語での指導が意図していない内容で受け取られたり、また、普通の日本人の学生への指導の仕方が、留学生の国の文化では不適切な指導方法となったりする、などです。

このような背景をふまえ、教員が、言語・文化が異なる留学生に接するときに留意すべき点や事例について学び、また実践するための方策を探ります。

日 時： 平成 31 年 3 月 14 日（木） 13 時 00 分～15 時 30 分

会 場： 自然科学大講義棟 レクチャーホール（講演）
大講義室（ワークショップ）

プログラム：

- 1) 講演「理工系分野における教員と留学生間の問題事例」
岸田由美先生（理工学域留学生教育研究室・准教授）
- 2) 講演「留学生指導の効果的英語表現と問題化しやすいパターンの例」
小笠原知子先生（保健管理センター・特任助教）
Senan Fox 先生 ※講演アドバイザー（人間社会研究域歴史言語文化学系・准教授）
- 3) 講演・ワークショップ「多様化する留学生への指導のあり方 -事例を通して考える-」
有川友子先生（大阪大学国際教育交流センター長）

備考：事前に教員から、質問・困った事例、困った英語表現などを募り、それをもとに小笠原先生・有川先生の講演・ワークショップに反映させる

〔タイムテーブル〕

- 13:00-13:10 挨拶（青木 理工研究域長）
- 13:10-13:15 趣旨説明（秋田 教育方法改善委員会委員長）
- 13:15-13:25 講演「理工系分野における教員と留学生間の問題事例」（岸田先生）
- 13:25-13:55 講演「留学生指導の効果的英語表現と問題化しやすいパターンの例」
※質疑応答 10 分を含む（小笠原先生）
- 13:55-14:00 休憩
- 14:00-15:30 講演・ワークショップ
「多様化する留学生への指導のあり方 -事例を通して考える-」（有川先生）
- 14:00-14:05 導入と流れの紹介
- 14:05-15:15 事例検討ワークショップ
- 1.事例の紹介(5 分)
 - 2.一人で検討(5 分)
 - 3.グループで検討（自己紹介と事例検討）（20 分）
 - 4.各グループから検討結果について報告(20 分)
 - 5.全体ディスカッション(20 分)
- 15:15-15:30 総括